

「大会宣言」(案)

平成二十二年全国理科教育大会島根大会・第八十一回日本理化学協会総会は、

『科学的能力を育む理科教育』―思考力、創造力、表現力の育成―

のテーマのもと、全国から約五百名が参集し、理科教育への熱い思いで真剣な討議を行った。そして理科教育が直面している多くの課題を解決していくために研究・協議を深め、多くの成果を収めた。

ここに、本大会の成果を生かし、今後の二十一世紀日本を支えるための理科教育の充実を誓い、わが国の科学技術創造立国としてのゆるぎなき発展に寄与し、わが国及び国際社会に貢献する人材の育成を目指すため、島根県松江市で開催する本大会を契機とし、次の事項について組織をあげて推進することを宣言する。

記

一 新たな「科学技術教育振興法」の実現を図る。

本協会は、大正十五年に創立され、今日の科学技術創造立国の基盤となる「理科教育振興法」制定の中心的な役割を担った。今回「理科教育振興法」による平成二十一年度「経済危機対策」関連事業である理科教育設備整備等補助予算額二百億円(全体で四百億)の補正予算は、史上最大規模と謳われ、今後の理科学習指導要領の実現を目指す契機となった。しかしながら、設置者である地方自治体等の対応に差があり、今回の予算を十分に活用できない学校も生まれた。今、まさに全額補助の新たな「科学技術教育振興法」の制定を目指す必要がある。二十一世紀を迎え、資源の乏しい我が国が進む道は、科学を通じて新しい知識を生み出し、その知識を活用して人類共通の問題解決に資することにより、世界から信頼される国を実現することである。そのために、我が国の科学技術の基盤整備のためのソフト・ハード両面の施策を織り込んだ、「科学技術教育振興法」の制定を目指し、組織をあげて全力を尽くす。

二 確かな学力の育成を目指す理科教育の充実に全力を注ぐ。

確かな学力を育てる教育は、自然に感動し、科学に関心を持ち、社会を豊かにすることができる理科教育に負うところが大きい。平成二十一年二月九日に文部科学省より告示された高等学校学習指導要領は、理科の教育内容の改善事項が大いに取り入れられた。そこで二十四年度からの理数の前倒実施に伴い、各学校の新教育課程編成における理科の時間数の増加や新たな科目である理科課題研究の導入に力を注ぐ。今後も目的意識をもった観察・実験を一層重視し、課題解決能力を培い、思考力、創造力、表現力を育成する理科教育の充実に全力を尽くす。

三 理科教員として資質の向上に最善を尽くし、指導力の向上をめざす。

理科教育に携わる私たちは、一つ一つの事象に対して豊かな発想を持ち、自ら学び自ら考える生徒を育成して生徒の個性と能力を最大限に伸ばす理科教育の担い手とならなければならない。そのために、絶えず指導方法の研鑽に邁進する。小・中・高・大の一貫した理科教育の指導内容を見据え、今回の学習指導要領改訂の趣旨を先取りした授業を展開する。さらに、教育課程実施状況調査及び国際的な学力の調査・比較(PISA2006・TIMSS2007)等の結果にみられる理科学習の意欲や関心が国際的に低水準であるとの課題を重大に受け止め、指導方法の改善に生かし、今の時代に即した指導力の向上に全力を尽くす。

四 環境教育とエネルギー教育の充実を図る。

理科教育は、地球環境を守り、エネルギー・資源問題を考える上で大きな役割を担っている。そのために、教科内容の充実と教材開発に努め、環境教育とエネルギー教育の充実を図る。

五 夢のある理科教育を推進する「科学技術・理科大好きプラン」の施策の充実に期待し、これを支援する。

文部科学省が平成十四年度から開始したスーパーサイエンスハイスクールをはじめとする諸施策は大きな成果を奏らせている。今後のさらなる充実・発展を支援するとともに、得られた成果を全国理科教育大会の機会を利用して全国の学校で生かす。さらに本年度、我が国で開催された国際化学オリンピックの成果を十分に生かし、世界に活躍できる子供たちの育成に全力を尽くす。

六 全国の理科教育研究団体の協力的体制の確立実現に努力する。

理科教育の充実を図るためには、理科教育研究団体の幅広い協力・連携が必要である。今回の改訂では小学校・中学校・高等学校の全国理科教育研究団体との緊密な協力関係のもと中央教育審議会に要望書を提出し学習指導要領の理科の時数が増加するなど一定の成果を得た。今後、理科教育設備の充実と新たな「科学技術教育振興法」制定に向け、理科教育研究団体の連携協議をさらに進めるとともに、高等学校の理科教育団体の一体化のために協力的体制を確立する。

平成二十二年八月六日

平成二十二年全国理科教育大会島根大会
第八十一回日本理化学協会総会